

Safety Data Sheet

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	水性クレオトップ カラー
種類	水性アクリル塗料
主な用途	水性木材保護塗料
会社名	株式会社 吉田製油所
郵便番号 & 住所	〒110-0005 東京都台東区上野 3 - 22 - 8 新ジイドビル
担当部門	川崎工場 品質管理部
担当者	品質管理部長
電話	044-288-5522 (月~金, 9:00a.m.-5:00p.m.)
Fax	044-277-7721
作成日	2019年7月31日
Web Address	http://www.ysds.co.jp/

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分 2B
水生環境有害性 (急性)	区分 2
水生環境有害性 (長期間)	区分 2

GHS ラベル要素

注意喚起語	警告
GHS シンボル	

危険有害性情報

H320	眼刺激
H401	水生生物に毒性
H411	長期継続的影響によって水生生物に毒性

安全対策の注意書き

P264	取扱い後は手や顔等をよく洗うこと。
P273	環境への放出を避けること。
P280	保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

応急処置の注意書き

P305+P351+P338	眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P337+P313	眼の刺激が続く場合、医師の診断を受けること。
P391	漏出物を回収すること。

保管 (貯蔵) の注意書き

P405	施錠して保管すること。
------	-------------

廃棄の注意書き

P501	内容物又は容器を国、都道府県、又は市町村の規則に従って廃棄すること。
------	------------------------------------

以下の注意事項に関してはGHS分類結果より、GHSラベル要素は非該当であるが、取扱い時には注意すること

P102	子供の手の届かないところに置くこと。
P263	妊娠中、授乳期中は接触を避けること。
P301+P312	飲み込んだ場合、気分が悪いときは医師に連絡すること。
P404	密閉容器に保管すること。
P410	日光から遮断すること。

3.組成、成分情報

単一/混合物の区分 : 混合物
化学名又は一般名 : 水性アクリル樹脂塗料

有害成分	CAS No.	含有量
アクリル酸エステル共重合体	N/A	3.4～3.7%
ヘキサコナゾール	79983-71-4	0.2%
ビフェントリン	82657-04-3	0.05%
2-(2-ブトキシエトキシ)エタノール	112-34-5	1.48%
水道水	N/A	92～93%
添加物(消泡剤、界面活性剤、顔料等)	N/A	残

4. 応急処置

以下のいかなる場合においても、応急処置を速やかに行い、必ず医師の診断を受けること。

吸入した場合	蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にする。異常を感じた場合には医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	汚染された衣服を速やかに脱ぐ。汚染された衣服を再使用する場合には、洗濯等で汚れを綺麗に落としてから使用する。外観に変化がある場合、又は痛みが続く場合には、速やかに医師の手当てを受ける。
眼に入った場合	直ちに清浄な水で洗浄する。コンタクトレンズを使用している場合は、外すことが可能であれば、取り除いて洗浄する。異物感が眼に残るようであれば、速やかに医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	誤って飲み込んだ場合には、口の中をよくすすぎ、直ちに医師の診断を受ける。意識がしっかりとしている場合には、可能であれば医師の診断までの間に気道に入れないように吐き出させる。
応急処置をする者の保護	救助を行う者が有害物質等に触れないように手袋、ゴーグル、マスク等の保護具を着用する。汚染された場合には、すぐに衣類や保護具を取り除く。

5. 火災時の処理

消火剤	不燃性
火災時の特定の危険有害性	水分がすべて蒸発した場合、微量の溶剤分が燃える可能性がある。
特定の消火方法	消防隊に火災の場所と危険有害性を伝える。
	避難誘導を速やかに行う。
	適切な遮断のある風上の安全な距離から消火する。
	可能な場合、容器や可燃性の製品等を周囲から素早く取り除く。
	容器や周囲の設備等に散水をして、出来る限り冷却する。
	安全な場合には、火災の危険が排除されるまで、電気機器のスイッチを切る。

6.漏出時の処置

人体に対する 注意事項	蒸気の吸入及び、皮膚や眼との接触を避ける。
	作業の際には、必ず保護具を着用する。
	関係者以外は立ち入り禁止とする。
環境に対する 注意処置	河川などに排出され、環境に影響を起こさないように注意する。
	水で洗い流す必要がある場合には、乾燥砂、土、その他の不燃性のものを用意し、排水をそれに吸収させる。吸収させたものは法規に基づいて処理を行う。
二次災害の 防止策	着火源となるものは、速やかに取り除く。
	内容物が飛散した場合には、人が近づかないように指示をし、飛散したものを掃き集め、法規に基づいた処理を行う。
	集めた飛散物は、処理するまで密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。
	漏出物の上をむやみに歩かないように、ロープ等で立入りできないように配慮する。

7.取扱い及び保管上の注意

技術的対策	労働安全衛生法、消防法などの関連法規に準拠して作業する。
	本剤に記載されている注意事項、使用方法等もよく読み、それに従った取り扱いを行う。
	呼吸器官の弱い人、アレルギー症状やかぶれの起きやすい人、病人、妊婦、乳幼児等がいる場合には絶対に使用しない。
	容器は、その都度密栓する。一度開封したものは、出来るだけ早く使い切る。
	取扱い場所の近くに、洗眼及び身体を洗浄するための設備を設置する。
局所排気・全体排気	密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具をつけて作業する。
安全取扱注意事項	子供の手の届かない場所に保管する。
	火気、直射日光及び湿気を避け、飲食物、食器類、飼料等とは区別し保管する。
	使用後の容器は、各自治体の廃棄方法に従い破棄する。
	容器を転倒、落下させる、引きずる、または容器に衝撃を加える等の粗暴な取り扱いをしない。
	飲み込みを避ける。
	取扱い後はよく手を洗う。
	皮膚との接触を避ける。

適切な保管条件	直射日光を避け、火気、放電、高温物から遠ざけて保管する。
	通気の良い、日陰の場所に保管する
安全な容器包装材料	本容器以外の容器は使用できない。保管の際は、必ず密封する。

8.曝露防止及び人に対する保護処置

<製品として>

許容濃度	: 未設定
保護具	
呼吸器の保護具	: 農薬用のマスク等
手の保護具	: 保護手袋
眼の保護具	: ゴーグル、保護メガネ
身体の保護具	: 保護服、保護帽、安全靴等

- 衛生対策 : 取扱いの際に、必ず保護具を着用する。
 設備対策 : 取扱場所の近くに、緊急用の洗眼設備及びシャワーを必ず設ける。

9.物理及び化学的性質

形状	液体
色	黒色・焦げ茶色・茶色
臭い	かすかな刺激臭
引火点	無し
沸点	100℃
密度	1.01~1.02
溶解度	水に易溶

10.安定性及び反応性

1	安定性	通常の冷暗所での保管条件下では安定。
2	避けるべき条件	5℃以下（低温）、もしくは40℃以上（高温）

11.有害性情報

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	眼に入ると、刺激を与える可能性が有ります。
-------------------	-----------------------

12.環境影響情報

水生環境有害性（急性）	ビフェントリンのデータから魚毒性値を算出した結果、区分2となった。
水生環境有害性（長期間）	ビフェントリンのデータから魚毒性値を算出した結果、区分2となった。急速分解性を示すデータがなく、生物蓄積性がある。

生態毒性 （ビフェントリン）	甲殻類	オオミジンコ EC ₅₀ （48H） 0.00011mg/L
	その他	急速分解性無し、生物蓄積性有

13.廃棄上の注意

焼却処理の際は、珪藻土等に付着させて、開放型の焼却炉で少量ずつ焼却する。適切な設備での焼却をお願いします。洗浄した排水等も、地面や排水溝へそのまま流さず、必ず回収をして適切な処置をしてください。また、必要に応じて、有機溶剤用マスク等の保護具の着用をお願いします。焼却の際には廃棄物処理法の許可を受けた業者に処理を委託する。使用後の容器は、各地方自治体の廃棄方法に従い廃棄してください。

14.輸送上の注意

国連番号	国連定義の危険物に該当しない
国連分類	非該当
容器等級	非該当
陸上輸送	消防法、労働安全衛生法に定められる運送方法に従う。
航空輸送	航空法に定めるところに従う。
海上輸送	船舶安全法に定めるところに従う。

15.適用法令

消防法	非該当			
労働安全衛生法	名称などを表示し、又は通知すべき危険物及び有害物	表示・通知対象の有無	名称	政令番号 (別表第9)
		表示義務・通知義務	2-(2-ブトキシエトキシ)エタノール	224の3
		カーボンブラックなどを微量に含有。その他の原材料も含め、労安法の据切値以下のため、非表示、非通知としている。		

16.その他の情報

危険・有害性の評価は現時点で入手出来る資料、データに基づいて作成しているが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証もなすものではない。また、注意事項は通常の見取り図を対象としたものであって、特別な取扱いをする場合には用途・用法および状況に適した安全対策を実施の上、取扱いには十分に注意すること。すべての化学製品には未知の危険性・有害性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要である。使用者の責任において、安全な使用条件を設定すること。

引用文献

- ・ GHS 対応 SDS・ラベル作成ガイドブック改訂第2版 社団法人日本塗料工業会 平成24年7月発行
- ・ GHS 分類結果データベース 独立法人製品評価技術基盤機構、アクセス日：2019/7/20
- ・ Globally Harmonized System of Classification And Labelling Of Chemicals(GHS), Fifth revised edition. United Nations New York and Geneva,2013.
- ・ JIS Z 7253 : 2019 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS)、日本規格協会 発行
- ・ 入手した他社原材料 SDS/MSDS